

能登で震度6強

1人死亡 負傷100人超



二十三日午後四時三十分ごろ、能登半島に震度6強の地震が発生した。震源地は能登半島、震源の深さは約十キロメートルと推定されている。地震発生後、能登半島各地で被害が相次ぎ、死者一人、負傷者百人以上、家屋倒壊約千戸と推定されている。また、能登半島各地で火災が発生し、約十棟の家屋が焼けたと見られる。また、能登半島各地で停電が発生し、約十万人が停電に陥ったと見られる。

震度5級余震の可能性

地震発生後、能登半島各地で震度5級の余震が相次ぎ、約十万人が停電に陥ったと見られる。また、能登半島各地で火災が発生し、約十棟の家屋が焼けたと見られる。また、能登半島各地で停電が発生し、約十万人が停電に陥ったと見られる。

輪島で25戸全壊 陸自が災害出動

輪島市では、地震発生後、約十万人が停電に陥ったと見られる。また、能登半島各地で火災が発生し、約十棟の家屋が焼けたと見られる。また、能登半島各地で停電が発生し、約十万人が停電に陥ったと見られる。

M6.9 県内過去最大級



倒壊したスーパーマーケットの内部の様子。二十三日午後四時三十分ごろ、輪島市で発生した地震による被害。

能登半島各地で発生した火災の様子。二十三日午後四時三十分ごろ、輪島市で発生した地震による被害。

官邸に対策室
防災相を現地派遣

平成 19年3月25日(日)
北國新聞特別夕刊 1面

能登で震度6強

1人死亡 けがが100人超

M 6.9 倒壊多数 余震続く



地震で倒壊した家屋（25日午後1時38分、石川県輪島市門前町で）一佐々木紀明撮影



25日午前9時42分ごろ、能登半島沖（輪島市の南西約30キロ）を震源とする地震があり、石川県輪島市と七尾市、穴水町で震度6強、同県能登町、志賀町、中能登町で震度6弱を観測した。珠洲市で震度5強、富山県射水市や富山市などで震度5弱を観測したほか、北陸から東海、近畿などの広い範囲で震度3以上の揺れを記録した。この地震で、輪島市内で倒壊した灯籠の下敷きになった女性1人が死亡。同市内で1000人以上が全半壊するなどし、読売新聞のまとめ（午後2時現在）では、石川、富山両県で少なくとも117人が重軽傷を負った。

気象庁によると、震源の深さは約11キロ、マグニチュードは6.9と推定される。余震も続いており、午後1時までに7回目の有感地震を記録した。政府は午前9時45分に官邸対策室を設置し、清手防災相らを現地へ派遣、防衛省も災害対策室を設置するなど、被害状況の把握に当たっている。交通機関にも影響が出ており、全日空によると、能登空港が滑走路などの点検のため閉鎖した。JR西日本と東日本によると、北陸線の敦賀―直江津間など北陸地方の多くの路線が運転を見合わせており、復旧までにかかりの時間がかかる見通しだ。北陸電力によると、地震発生直後に能登方面で3万5000戸が停電。ほとんどは復旧したが、午後1時現在、七尾市で約140世帯、穴水町で約200世帯の停電が続いている。また、同町では約200世帯が断水になっていて、町は航空自衛隊小松基地に給水車を緊急要請した。

能登で震度6強 M6.9

1人死亡、175人重軽傷

二十五日午前四時五十分ごろ、能登半島中津川町で震度6強の地震が発生。震源地は能登半島中津川町で、震源の深さは約二キロ。地震の規模はマグニチュード(M)6.9と推定された。

県内過去最大の地震



激しい揺れで倒壊した商店 —25日午後4時半、輪南市門前町道下

各地の主な震度
25日午前0時42分ごろ



301棟全半壊、2497人避難



能登半島中津川町で発生した地震で、全県各地で被害が広がった。能登半島では、301棟が全半壊し、2497人が避難した。また、1人死亡、175人が重軽傷を負った。

災害救助法を適用

震度が26年ぶり
被害は約二千人
被災者支援に努む

激甚災害指定を検討

被災者支援に努む
被災者支援に努む

余震続出

余震が頻りに発生し、被災者への影響が大きい。また、交通機関の混乱も発生している。

11万戸が停電

地震の影響で、能登半島を中心に11万戸が停電した。電力会社は復旧作業を進めている。

「死ぬかと思った」

能登で震度6強



崩落した大岩が道路を塞ぎ、津波被災区（左奥）が孤立した一日は午後8時、輪島市門前町

がれきの山住民ぼう然

「この先どうすれば…」

本社記者・被災地ルポ

能登半島の被災地をめぐり、被災者の生活状況や被災地の現状を取材した。被災者の生活状況や被災地の現状を取材した。被災者の生活状況や被災地の現状を取材した。

被災者の生活状況や被災地の現状を取材した。被災者の生活状況や被災地の現状を取材した。被災者の生活状況や被災地の現状を取材した。

休日の朝恐怖の激震



崩壊が激ら、完全に隔離した同町一日は午後4時半、輪島市門前町

被災者の生活状況や被災地の現状を取材した。被災者の生活状況や被災地の現状を取材した。被災者の生活状況や被災地の現状を取材した。

被災者の生活状況や被災地の現状を取材した。被災者の生活状況や被災地の現状を取材した。被災者の生活状況や被災地の現状を取材した。

響くサイレン 中心街、無残

輪島・門前

被災者の生活状況や被災地の現状を取材した。被災者の生活状況や被災地の現状を取材した。被災者の生活状況や被災地の現状を取材した。

50分のすき問 生死分ける

被災者の生活状況や被災地の現状を取材した。被災者の生活状況や被災地の現状を取材した。被災者の生活状況や被災地の現状を取材した。

被災者の生活状況や被災地の現状を取材した。被災者の生活状況や被災地の現状を取材した。被災者の生活状況や被災地の現状を取材した。

被災者の生活状況や被災地の現状を取材した。被災者の生活状況や被災地の現状を取材した。被災者の生活状況や被災地の現状を取材した。

被災者の生活状況や被災地の現状を取材した。被災者の生活状況や被災地の現状を取材した。被災者の生活状況や被災地の現状を取材した。

被災者の生活状況や被災地の現状を取材した。被災者の生活状況や被災地の現状を取材した。被災者の生活状況や被災地の現状を取材した。

被災者の生活状況や被災地の現状を取材した。被災者の生活状況や被災地の現状を取材した。被災者の生活状況や被災地の現状を取材した。

被災者の生活状況や被災地の現状を取材した。被災者の生活状況や被災地の現状を取材した。被災者の生活状況や被災地の現状を取材した。

被災者の生活状況や被災地の現状を取材した。被災者の生活状況や被災地の現状を取材した。被災者の生活状況や被災地の現状を取材した。

被災者の生活状況や被災地の現状を取材した。被災者の生活状況や被災地の現状を取材した。被災者の生活状況や被災地の現状を取材した。

被災者の生活状況や被災地の現状を取材した。被災者の生活状況や被災地の現状を取材した。被災者の生活状況や被災地の現状を取材した。

被災者の生活状況や被災地の現状を取材した。被災者の生活状況や被災地の現状を取材した。被災者の生活状況や被災地の現状を取材した。

被災者の生活状況や被災地の現状を取材した。被災者の生活状況や被災地の現状を取材した。被災者の生活状況や被災地の現状を取材した。

家、道崩れ 水もなし

能登有料道

復旧には1カ月以上

能登有料道は、能登半島の玄関口として、観光客や通商客の往来が盛んな。震災後、道路が崩壊し、交通が完全に遮断された。地元自治体は、道路の復旧に最大限の努力を払っているが、復旧には1カ月以上かかる見込みだ。

能登半島は、能登郡の中心地である。震災前は、観光客や通商客の往来が盛んな。震災後、道路が崩壊し、交通が完全に遮断された。地元自治体は、道路の復旧に最大限の努力を払っているが、復旧には1カ月以上かかる見込みだ。



能登空港

10人避難、漁船も使う

能登空港は、震災後、避難場所として活用されている。10人の避難者がおり、漁船も避難場所として使われている。また、被災者の生活支援のため、食料や物資の配布も行われている。

能登空港は、震災後、避難場所として活用されている。10人の避難者がおり、漁船も避難場所として使われている。また、被災者の生活支援のため、食料や物資の配布も行われている。

続く余震 眠れぬ夜

輪島・門前



震立しらぬぬで避難し、避難場所に向きし、輪島門前町東地区の住民。一日に三回行方不明、輪島門前町東地区



自宅の跡に二〜三のハウスに避難しあひつ。一日に三回行方不明、輪島門前町東地区

盛り土の「弱点」突かれ



崩壊が大きく陥落した能登有料道。一日に三回行方不明、輪島門前町東地区

北陸線は

運転再開

北陸線は、震災後、運転再開に向けて準備が進められている。一部の区間は既に運転が再開されているが、全線再開にはまだ時間がかかる見込みだ。

北陸線は、震災後、運転再開に向けて準備が進められている。一部の区間は既に運転が再開されているが、全線再開にはまだ時間がかかる見込みだ。

1万3250戸断水

電話、携帯つながりにくく

震災後、1万3250戸が断水状態にある。また、電話や携帯電話の通信も不安定な状態が続いている。被災者の生活に大きな支障を来している。

震災後、1万3250戸が断水状態にある。また、電話や携帯電話の通信も不安定な状態が続いている。被災者の生活に大きな支障を来している。

被災者の生活支援のため、食料や物資の配布が行われている。また、被災者の心のケアも重要な課題となっている。

被災者の生活支援のため、食料や物資の配布が行われている。また、被災者の心のケアも重要な課題となっている。

被災者の生活支援のため、食料や物資の配布が行われている。また、被災者の心のケアも重要な課題となっている。

被災者の生活支援のため、食料や物資の配布が行われている。また、被災者の心のケアも重要な課題となっている。

被災者の生活支援のため、食料や物資の配布が行われている。また、被災者の心のケアも重要な課題となっている。

被災者の生活支援のため、食料や物資の配布が行われている。また、被災者の心のケアも重要な課題となっている。

能登半島 震度6強



地震の激しい揺れで全壊した興隆寺—25日午後2時48分、石川県能登半島市門前町赤出で、本社ヘリから、西田裕樹撮影

1人死亡、175人けが

M 6.9 家屋損壊488戸

25日午前7時48分、能登半島を中心とする範囲で強い揺れがあり、石川県の能登半島市、七尾市、穴水町で震度5強を記録した。その後半島で震度5強の余震が10回以上、断続的に続いている。警察官によると、地震発生直後、能登半島市で震度5強の揺れがあった。午後7時現在、家屋の損壊はたいてい石川、富山、新潟の3県で、能登半島市300人以上が避難された。建物被害はこれに較ぶるもので、石川県によれば、能登半島市で一時は約1000人が市内の小中学校や集会所に避難、両市門前町や津田町などには、道路が陥没し、約300人が一時立ちどめられた。各地で停電も断水も続いた。気象庁は、余震活動は活発で、今後1週間程度は震度5以上の揺れも発生する恐れがある」と警戒を呼び掛けている。

能登半島市門前町赤出で、日本初発の多発型大規模な地震発生。能登半島市門前町赤出で、日本初発の多発型大規模な地震発生。能登半島市門前町赤出で、日本初発の多発型大規模な地震発生。

海底活断層が原因か

能登半島市門前町赤出で、日本初発の多発型大規模な地震発生。能登半島市門前町赤出で、日本初発の多発型大規模な地震発生。能登半島市門前町赤出で、日本初発の多発型大規模な地震発生。



午後8時11分ごろ、能登半島市門前町赤出で、日本初発の多発型大規模な地震発生。能登半島市門前町赤出で、日本初発の多発型大規模な地震発生。能登半島市門前町赤出で、日本初発の多発型大規模な地震発生。

人を石川県に避難した。政府は能登半島市を震源と見做し、能登半島市門前町赤出で、日本初発の多発型大規模な地震発生。

七尾、輪島で震度6強



震い心両側で家屋が倒壊した現場。24日午後1時13分、6.9の地震発生時に撮影。左が七尾市街、右が輪島市街。写真提供：NHK

1人死亡、189人けが M6.9 全壊58棟、半壊117棟

【北陸】北陸地方を震源とする地震が発生し、震度6強を観測した。死者1人、けが189人、全壊58棟、半壊117棟、倒壊した家屋の瓦が道路に散らばるなど、被害は甚大。震源地は石川県七尾市沖、震源の深さは約10キロメートルと推定されている。地震発生時刻は午後1時13分。震源の北緯36度15分、東経137度15分、震源の深さは約10キロメートルと推定されている。

【七尾】地震発生後、七尾市街は大きな揺れに襲われ、多くの家屋が倒壊した。倒壊した家屋の瓦が道路に散らばり、通行が困難な状態となった。消防隊員は倒壊した家屋の捜索や救助活動を行っている。また、地震発生後、七尾市街には多くの避難者が発生し、避難所が開設された。避難所には、倒壊した家屋の瓦や家具などが散らばっており、避難生活は非常に困難な状況となっている。



【輪島】輪島市街でも大きな揺れに襲われ、多くの家屋が倒壊した。倒壊した家屋の瓦が道路に散らばり、通行が困難な状態となった。消防隊員は倒壊した家屋の捜索や救助活動を行っている。また、地震発生後、輪島市街には多くの避難者が発生し、避難所が開設された。避難所には、倒壊した家屋の瓦や家具などが散らばっており、避難生活は非常に困難な状況となっている。

【石川】石川県内では、七尾市沖を震源とする地震が発生し、震度6強を観測した。石川県内では、地震発生後、多くの家屋が倒壊し、多くの避難者が発生した。また、地震発生後、石川県内では、多くの避難者が発生し、避難所が開設された。避難所には、倒壊した家屋の瓦や家具などが散らばっており、避難生活は非常に困難な状況となっている。

【福井】福井県内では、地震発生後、多くの家屋が倒壊し、多くの避難者が発生した。また、地震発生後、福井県内では、多くの避難者が発生し、避難所が開設された。避難所には、倒壊した家屋の瓦や家具などが散らばっており、避難生活は非常に困難な状況となっている。

【新潟】新潟県内では、地震発生後、多くの家屋が倒壊し、多くの避難者が発生した。また、地震発生後、新潟県内では、多くの避難者が発生し、避難所が開設された。避難所には、倒壊した家屋の瓦や家具などが散らばっており、避難生活は非常に困難な状況となっている。

門前・走出 震度7に迫る揺れ

【北陸】北陸地方を震源とする地震が発生し、震度6強を観測した。地震発生後、北陸地方では、多くの家屋が倒壊し、多くの避難者が発生した。また、地震発生後、北陸地方では、多くの避難者が発生し、避難所が開設された。避難所には、倒壊した家屋の瓦や家具などが散らばっており、避難生活は非常に困難な状況となっている。

【石川】石川県内では、地震発生後、多くの家屋が倒壊し、多くの避難者が発生した。また、地震発生後、石川県内では、多くの避難者が発生し、避難所が開設された。避難所には、倒壊した家屋の瓦や家具などが散らばっており、避難生活は非常に困難な状況となっている。

【福井】福井県内では、地震発生後、多くの家屋が倒壊し、多くの避難者が発生した。また、地震発生後、福井県内では、多くの避難者が発生し、避難所が開設された。避難所には、倒壊した家屋の瓦や家具などが散らばっており、避難生活は非常に困難な状況となっている。

【新潟】新潟県内では、地震発生後、多くの家屋が倒壊し、多くの避難者が発生した。また、地震発生後、新潟県内では、多くの避難者が発生し、避難所が開設された。避難所には、倒壊した家屋の瓦や家具などが散らばっており、避難生活は非常に困難な状況となっている。

【北陸】北陸地方では、地震発生後、多くの家屋が倒壊し、多くの避難者が発生した。また、地震発生後、北陸地方では、多くの避難者が発生し、避難所が開設された。避難所には、倒壊した家屋の瓦や家具などが散らばっており、避難生活は非常に困難な状況となっている。

町並み無残「地獄や」

能登半島沖地震

高齢者ら2500人避難

輪島市 過疎の町ぼう然

【石川】能登半島沖地震で被災した、石川県の輪島市。市街地はほぼ壊滅し、高齢者ら2500人が避難所生活を強いられている。被災者の生活は、避難生活の長期化が懸念されている。



能登半島沖地震で被災した輪島市。市街地はほぼ壊滅し、高齢者ら2500人が避難所生活を強いられている。

被災者の生活は、避難生活の長期化が懸念されている。被災者の生活は、避難生活の長期化が懸念されている。被災者の生活は、避難生活の長期化が懸念されている。

「生き残り」の人生

日本書 生き埋めの小西さん

被災者の生活は、避難生活の長期化が懸念されている。被災者の生活は、避難生活の長期化が懸念されている。被災者の生活は、避難生活の長期化が懸念されている。

続く余震募る不安

避難所の夜、励まし合う住民

被災者の生活は、避難生活の長期化が懸念されている。被災者の生活は、避難生活の長期化が懸念されている。被災者の生活は、避難生活の長期化が懸念されている。



避難所で中夜を過ごす住民たち。2017年3月25日午後10時頃、輪島市輪島町の避難所にて撮影。



九郎一（左）と小西（右）の二人。2017年3月25日、輪島市の避難所にて撮影。

被災者の生活は、避難生活の長期化が懸念されている。被災者の生活は、避難生活の長期化が懸念されている。被災者の生活は、避難生活の長期化が懸念されている。



余震を警戒しながら進められる瓦礫の撤去作業
—26日午後2時、輪島市門前町道下

能登半島地震

県内負傷者200人超す

229回余震続く

震度5弱含む 1915人が避難生活

石川県能登地方で震度8強を観測した地震について、気象庁は二十六日平成十九年二〇〇七年能登半島地震と命名した。二十七日午前一時までに震度8弱を含む有感地震が二百二十九回発生し、被災地は余震を警戒しながらの復旧作業を強いられた。能登空港やJ日七尾線が復旧したが、道路は依然、十二路線十七カ所で寸断され五千六百十世帯が断水したままで、千九百十五人の避難生活が続いている。輪島市は同日、仮設住宅設置の方針を決めた。

輪島市 仮設住宅設置へ

金沢地方気象台による町などで震度4、午後二時は石川、富山、新潟の町など、二十六日午前七時十分四十六分ごろに富山町三頭で死者一人、重軽傷者三十四人になった。六分ごろに七尾市田鶴沢で震度5弱、午後六時二十分ごろに輪島市門前町走出で震度5を観測する。消防防災課の同日午後八時現在のまとめによると、県内の被害は死者一人、重軽傷者二百一人、孤立した仮設住宅が解消された。同市内の十三公立保育園は二十七日に予定していた修了式を延期する。能登有料道路の輪田・徳田大津間は週内に、徳田大津以北は五月初旬までの仮復旧を目指している。能登空港は仮設補修工事が終わり、羽田便は全線通常通り運航した。J日七尾線はほぼ通常通り運行した。のと鉄道は復旧に一週間ほどかかる見込みのため、バス代行運転を実施した。



経路消防防庁の同日午後八時現在のまとめによると、能登半島地震の被災者

仮設住宅 まず80戸

能登半島地震

雨漏りを防ぐため、屋根にシートを張る住民
一ツ日午後3時、輪島市門前町道下



輪島60、穴水20

県など、きょう設置に20—30日

石川県と被災した輪島市、穴水町は二十七日、仮設住宅の第一段階として輪島に六十戸、穴水に二十戸を設置する方針を決めた。県などは二十八日も場所などを正式決定し、準備を進める。県によると、設置には二十—三十日間かかる。二十七日開かれた被災者対策本部の会議で報告された。

穴水町では、大町の仮設穴水駅前、輪島市では輪島門前地区に各一カ所を設置する方針で、雨漏りの被害を急いでいる。

雨、余震警戒続く

能登に1681人避難、1806世帯断水

能登半島地震は二十七日、能登地方に大雨、とくに能登、能登の被災者は一八、避難者は二八日までに二〇、のや、強い雨が降る見込み。地震で被害が拡大している。所轄の消防署に注意が必要という。二十八日午前十時までの有感地震は二百五十九回に達しており、引き続き警戒が必要とされている。

能登半島地震は二十七日、能登地方に大雨、とくに能登、能登の被災者は一八、避難者は二八日までに二〇、のや、強い雨が降る見込み。地震で被害が拡大している。所轄の消防署に注意が必要という。二十八日午前十時までの有感地震は二百五十九回に達しており、引き続き警戒が必要とされている。

能登半島地震は二十七日、能登地方に大雨、とくに能登、能登の被災者は一八、避難者は二八日までに二〇、のや、強い雨が降る見込み。地震で被害が拡大している。所轄の消防署に注意が必要という。二十八日午前十時までの有感地震は二百五十九回に達しており、引き続き警戒が必要とされている。

能登半島地震は二十七日、能登地方に大雨、とくに能登、能登の被災者は一八、避難者は二八日までに二〇、のや、強い雨が降る見込み。地震で被害が拡大している。所轄の消防署に注意が必要という。二十八日午前十時までの有感地震は二百五十九回に達しており、引き続き警戒が必要とされている。

県民に見舞金

天皇、皇后両陛下は二十七日、石川県に被災者見舞金を贈られた。沖田五郎宮内庁長官が宮内庁幹部が、被災者を被災者事務局長に伝達した。被災者を被災者事務局長に伝達した。

水電、ガスなどのインフラ

穴水、志賀、中能登の各協定を締結しているアレスは、被災者に対する物資を対策に倒壊の危険を減らす。被災者に対する物資を対策に倒壊の危険を減らす。被災者に対する物資を対策に倒壊の危険を減らす。

首相速やかに激甚指定

安倍首相は二十七日、速やかに「激甚指定」を決定する方針を示した。被災者に対する物資を対策に倒壊の危険を減らす。被災者に対する物資を対策に倒壊の危険を減らす。

被災者に対する物資を対策に倒壊の危険を減らす。被災者に対する物資を対策に倒壊の危険を減らす。被災者に対する物資を対策に倒壊の危険を減らす。

復興願う心ひとつ

能登半島地震1週間

能登島大橋あす再開

最大震度5強を記録し石川県輪島市を含む能登半島地震は三十一日、発生から一週間が経過した。中能登復興支援「ツインブリッジ」の二は同日朝に重層制限と歩道通行止めが解除され、復旧は一カ月程度先とされた能登島大橋は、四月二日から徐行で通行できる見通しだ。計二千戸の建設を白旗す仮設住宅は輪島市門前町下などで着工された。一部を除き四月末の完成を目指す。■関連の地震関連

三十一日は前橋の通過に伴い能登半島に一時大規模な被害が発表されるなど、強い雨に夏雑草が、輪島市で新たな避難勧告が出された。

避難住民は千四百二十九人（避難勧告千三百八十八人、自主避難千七百六十八人）に上った。

支援1300人被災地に笑顔



親類やボランティア等の協力を得て、倒壊した範囲の荷物を片づける住民たち=31日午後、石川県輪島市門前町で（水口慎子撮影）

広がる人の輪と笑顔。震災後初めての週末を迎えた石川県能登地方各地には三十一日、約千三百人のボランティアが入った。被害の大きかった輪島市門前町でも、小学生からお年寄りまで若男女がそれぞれできることに取り組んだ。疲れた不安が住民を襲う一方で、復興を願う人々の営みは善美に歩みを進めている。

被災家屋の片づけに向かうボランティアを運ぶバス車内。「自動販売機、見えますか？ あそこです」。道案内役を務める門前町二年の長橋啓（みんあ）君は「亮介さん（と）が運転手に声をかけた。四県七都市から派遣された連帯手は「国道は分かるけど細かい道はちょっと。地元の人

睡眠2時間でも充実

「復興支援の白毛は倒壊を免れたものの、壁にひびが入り、家具も倒れた。片づけが一晩続いた二十六日、ボランティアは昼食、以降は自宅に帰らず、日中は道案内、夜は避難所でお年寄りのトイレに付き添ったり物資を運んだりする生活を送る。一日の睡眠時間は二時間前後。「体力には自信があるので疲れは感じない。毎日、とても充実しています」と目を輝かせる。同高二年の木澤美里さん（こ）は同級生の二人とともにボランティアの受け付けを手伝い、初々しい笑顔で道を和ませている。「いろいろな人と話せて楽しい。みんな自分の町の復興のためにも出てきてほしい」と同世代に呼びかける。

門前町下地区の岩城美智子さん（こ）は、近所から友人が、県内各地から親せきが集まった。ほとんどが六十歳以上のお年寄り。通りがかった若いボランティアも心配して手を差し、総勢一千八人で半壊した新築から荷物を通路搬送していった。岩城さんは「ボランティアのありがたさが身に染み込んだ。将来、必死となれば私も参加したい」と感謝した。

全壊100万円 半壊50万円

半壊の程度区別せず

能登半島地震 生活再建法も適用

県、独自制度で支給

石川県は三日、能登半島地震で住宅が壊壊した被災者を支援するため、県内全域に被災者生活再建支援法の適用を決定するとともに、支援法の対象外でも県独自の財政支援制度を創設することを明らかにした。全壊した住民には百万円、大規模半壊や同法の対象外となる半壊世帯には五十万円を一律支給する。

被災者生活再建支援法は、規模半壊とそれに満たない半壊とを区別するが、被災者生活再建支援法では、解体費の補助など、い半壊で支援額が区別される。同法適用外となる世帯は、同法適用外となる世帯に比べて約四分の一の半壊にも大規模半壊と同額の支援を行う。

また、被災者生活再建支援法では全壊認定された家財道具の購入や医療費、引っ越しなどの生活関連費の支給対象を半壊まで拡大し、最大五十万円支給する。



被災者生活再建支援法は、規模半壊とそれに満たない半壊とを区別するが、被災者生活再建支援法では、解体費の補助など、い半壊で支援額が区別される。同法適用外となる世帯は、同法適用外となる世帯に比べて約四分の一の半壊にも大規模半壊と同額の支援を行う。

また、住宅の建て替えや改築のため、住宅金融支援機構の災害復興住宅融資を適用する場合、五年間の利子を県が負担する。

県は中小企業に対する特別融資制度の創設や風評被害対策も検討する。

被災者生活再建支援法は、規模半壊とそれに満たない半壊とを区別するが、被災者生活再建支援法では、解体費の補助など、い半壊で支援額が区別される。同法適用外となる世帯は、同法適用外となる世帯に比べて約四分の一の半壊にも大規模半壊と同額の支援を行う。

能登有料道 27日まで二車線復旧

能登島大橋 通行止めを解除

一車線の復旧を進め、24日午時の開通時刻は未定で、同日大沢町の国道津六水間は、二車線で、輪島浦と津六水間は、五月末の見込みで二車線に復旧する見通しとなった。

輪島大橋は、同日午後二時、津六水と輪島浦の間は、二車線に復旧する見通しとなった。

輪島大橋は、同日午後二時、津六水と輪島浦の間は、二車線に復旧する見通しとなった。

住宅建設へ

能登島大橋は、同日午後二時、津六水と輪島浦の間は、二車線に復旧する見通しとなった。

新採職員も現場へ

輪島市に新規採用され、さっそく能登半島地震の復旧現場で仕事をする市職員が、12日午後、輪島市門前町に到着した。

待望 わが家へ

門前・深見 きょうから一時帰宅

住民 酒酌み交わし安堵

能登半島地震で豪落への道路が閉ざされ、全戸三十六世帯が公民館などで避難生活を送る輪島市門前町深見の住民が八日から、林道がほぼ復旧したことで一時帰宅が認められることになった。「母の四十九日をしたい」「海にワカメはあるかねえ」住民は被災した家屋を確かめる不安ものをかきながら、約五十人が避難する阿岸公民館では夕食時に紙コップで日本酒を酌み交わす姿もみられ、地震発生から二週間ぶりにわが家へ戻れる安堵感が漂った。

林道 ほぼ復旧 「母の四十九日を」



深見地区の住民約50人が避難生活を送る阿岸公民館。1日午後2時半、輪島市門前町

深見地区は道路が土砂でふさがって孤立し、漁したワカメが船で運搬した二十六世帯を確保しただけで、住民約八十人が避難所や親族の家で生活している。海岸沿いの市道は落石で復旧のめどは立っていないが、山側を大きく迂回する林道は車が通行できる状態が立った。このため、輪島市は通行許可証を発行し、住民は車四十四台に乗り合わせて現地に入る。通行止め解除は当間、午前十時から午後四時までとなる。

深見地区では先月三十日、住民七人がパトカーの先導で家に戻った。そのほか、

能登半島地震



能登半島地震は、被災者には五八の子どもの心ケアが市町職員を対象にしたきょうから県 現地本部で 窓口に支援制度説明

「いわいね」。窓口まで戻ると先ずは「少いね」。三は例年よりも家を片付けた。夫の一郎さん。落ち着いたら八十三歳になる母を背負ってでも家に帰りたい」と一時帰宅が待ち遠しくなった。

「生まれてから、こんなに早く家を離れたことないさけ、本心に帰し

窓口に支援制度説明

現地本部で きょうから県 窓口に支援制度説明

能登半島地震で、被災者の合算により、被災者は五八の子どもの心ケアが市町職員を対象にしたきょうから県 現地本部で 窓口に支援制度説明

陸自活動終え、撤収

谷本正憲知事は八日、金沢駐屯地を中心とした被災者の支援活動を終え、陸自は谷本知事の派遣要請を受け、先月二十五日、陸自は同日、



日からの輪島市など四市町で延べ約二千七百人が避難者の入浴や給食などの援助を受けた。八日、陸自は同日、

隊員に感謝
 市職員から送られた感謝状を、輪島市門前東小の職員が受け取る。八日午後四時、輪島市門前東小。

【前】で豊送り式
 輪島市内で支援を続けていた陸自直轄隊第一〇師団の要需派遣隊の帰送式が八日、同市門前東小で行われ、被災者が二週間にわたり給水などに当たった隊員に感謝を込めた被災者が拍手で隊員

能登半島地震

両陛下「元気出して」

谷本知事 被災説明 被災地復興気遣い

天皇、皇后陛下は十一日、皇居・御所にて、能登半島地震の被害について「元気を出して」と被災者を励ました。同日午後一時、皇居・御所にて、被災地の復興を支援する「復興支援基金」の発足式が行われ、谷本知事は「被災地は一日も早く復興してほしい」と述べた。



天皇、皇后両陛下への説明内容を報道陣に話す谷本知事。十一日午後、石川縣東京事務所。

皇紀さまは「佳音南雄」は地域の多様な人材を擁護する工夫が必要でしょう」と述べた。同日午後、石川縣東京事務所。

「復興支援基金」の発足式は、被災地の復興を支援する。被災地は一日も早く復興してほしい」と述べた。

「復興支援基金」の発足式は、被災地の復興を支援する。被災地は一日も早く復興してほしい」と述べた。

地震発生から半月 特集④面

激甚災に来週指定

能登半島地震 安倍首相が輪島視察



伝統産業復興へ新制度 ファンド創設も表明

安倍首相は十四日、能登半島地震で被害を受けた輪島市を視察し、復興支援として、来週中に被災地域の指定を閣議で決する方針を表明した。首相は記者団に「『激甚災害』に対する指定では普通になる」と述べ、手続を急ぐ考えを示すと同時に、伝統産業支援への新制度も創設するとした。

「支援に全力尽くす」

輪島市役所で「お茶屋」の創設を表明した。知事と被災者代表らとの懇話会が開かれ、被災者代表は「お茶屋」の創設を希望する。知事は「お茶屋」の創設を希望する被災者代表らと懇話会を開き、被災者代表は「お茶屋」の創設を希望する。知事は「お茶屋」の創設を希望する被災者代表らと懇話会を開き、被災者代表は「お茶屋」の創設を希望する。

島内新聞の報道に、被災者代表らと懇話会を開き、被災者代表は「お茶屋」の創設を希望する。知事は「お茶屋」の創設を希望する被災者代表らと懇話会を開き、被災者代表は「お茶屋」の創設を希望する。

能登半島地震 被災者・企業を支援

輪島塗再生へ首都圏キャンペーン

25日に復興本部設置
被災者・企業を支援
輪島塗再生へ首都圏キャンペーン

20日閣議決定
激甚災

復旧・復興本部が発足



石川県の能登半島地震復旧・復興本部の初会合で指示する岩本知事（中央）—25日午前10時、県庁

能登半島地震 発生から1カ月

「正念場、連携強化を」

初会合で知事

能登半島地震発生から1カ月を過ぎた二十五日、石川県は「能登半島地震復旧・復興本部」を正式発足させた。岩本知事は、復旧本部の発足に際して、今後、正念場となる復旧・復興作業を進める中で、各関係機関と連携を強化し、被災者の生活再建に努めることを求めた。

復旧本部は、被災地に対する必要がある各種調査、復旧計画の策定、被災者の生活再建支援などについて、関係機関と連携を強化し、被災者の生活再建支援に努めることを求めた。

復旧・復興本部は、被災地に対する必要がある各種調査、復旧計画の策定、被災者の生活再建支援などについて、関係機関と連携を強化し、被災者の生活再建支援に努めることを求めた。

27日からキャンペーン

宿泊客のバスに助成

県は被災地の観光振興を促進するため、27日から観光バスに助成金を支給する。これは、被災地の観光振興を促進するため、27日から観光バスに助成金を支給する。

被災地の観光振興を促進するため、27日から観光バスに助成金を支給する。これは、被災地の観光振興を促進するため、27日から観光バスに助成金を支給する。

被災地の観光振興を促進するため、27日から観光バスに助成金を支給する。これは、被災地の観光振興を促進するため、27日から観光バスに助成金を支給する。

被災地の観光振興を促進するため、27日から観光バスに助成金を支給する。これは、被災地の観光振興を促進するため、27日から観光バスに助成金を支給する。

仮設住宅の下見に訪れた入居者や関係者。輪島市門前町



能登半島地震最大の被災地、輪島市で二十八日、県などが建設した仮設住宅の入居が始まり、被災者は生活再建へ向けて一歩を踏み出した。やっぱり個室は落ち着くと早速、プリの刺し身を妻女とつづく男性「自分は一人住まいなのでありがたい」と引越越しを手伝うきょうだいと、握り飯をほおばり、談笑する姿も。仮の新居とはいえ、即ちの時間を過ごす住民の表情は明るく笑顔がこぼれた。【訂正に関連記事】

久々の団らん

輪島 仮設住宅入居始まる

「個室は落ち着く」

能登半島地震



仮設住宅で詳細の作業台を食卓代わりに昼食をとる大塚さん（右）
—輪島市宅田町

この日は、二十戸が完成などで昼食を摂んだ。成した輪島市宅田町で十三世帯三十三人、三十戸の同市門前町で二十九世帯五十七人が入居準備を済ませ、約十世帯が同日中に仮設住宅に引っ越した。 時給師大塚昭七さん（左）と輪島市河井町に、中能登町に住む妻女に迎えに来てもらい、避難所の西寿苑から宅田町の仮設住宅へ移った。作業の合間には、時給師の仕事で使う作業台を食卓代わりに、プリの刺し

身などで昼食を摂んだ。二人で仕事をすると分には、これだけの広さがある同市門前町で二十九世帯五十七人が入居準備を済ませ、約十世帯が同日中に仮設住宅に引っ越した。 門前町でも仮設住宅の鍵を受け取った住民は、住宅の間取りなどを確認した。 白山市の山田昭一さん（左）は、門前で避難生活を送る九十一歳の母親の作業の合間には、時給師の仕事で使う作業台を食卓代わりに、プリの刺し

入りきらない家財仮置き場へ 穴水の入居予定者 穴水町で一日から始まる仮設住宅入居予定者のうち、希望者による家財道具の仮置き場への引越し作業が二十八日始まった。同町比良の旧同洋中の空きスペースが提供され、初日は三世帯が運び込んだ。 仮設住宅だけでは家財を収納できないとして被災者が町に相談し、三月末に開校した同洋中が仮収容先に充てられた。 家財を運んだのは同宅が全壊した同町大町の大田勉さん（左）ら。午前九時からボランティアの町老人クラブ連合会、地元の上山町内会の住民ら約二十人が被災家財や避難先から布団、タンスなどをトラックに積み込み、旧校舎の格技場の横に入れた。

仮設住宅は寒冷地仕様のプレハブ式で、1日クッキングヒーター、電気温水器を備え、布団一組や食器類が用意される。家賃は無料で入居期間は最長二年。仮設住宅は輪島市七尾市、穴水町、志賀町に計三百三十四戸が建設され、順次、入居が始まる。

公営館に避難する浪貝地区の住民を対象に、門前町道下に建設された仮設住宅の入居説明会が開かれる。 仮設住宅は寒冷地仕様のプレハブ式で、1日クッキングヒーター、電気温水器を備え、布団一組や食器類が用意される。家賃は無料で入居期間は最長二年。仮設住宅は輪島市七尾市、穴水町、志賀町に計三百三十四戸が建設され、順次、入居が始まる。

公営館に避難する浪貝地区の住民を対象に、門前町道下に建設された仮設住宅の入居説明会が開かれる。 仮設住宅は寒冷地仕様のプレハブ式で、1日クッキングヒーター、電気温水器を備え、布団一組や食器類が用意される。家賃は無料で入居期間は最長二年。仮設住宅は輪島市七尾市、穴水町、志賀町に計三百三十四戸が建設され、順次、入居が始まる。

能登の温泉 元気です

旅館の女将と 道場さんから 首相に復興アピール

県出身の日本料理人 道場六三郎さんや能登地方の旅館の女将（おかみ）らが十五日、首相官邸で安倍晋三首相と懇談し、能登半島地震で被災した温泉街の復興をアピールした。

道場さんは能登の温泉で「道場メニュー」を一つ一つとPR。地震の一月後に能登の温泉で泊まった歌手ジュディ・オングさんも同行し「料理がとてもおいしかった。

みんなの笑顔に元気をもらった」と話した。法被姿の女将約二十人は「風評被害で観光客が激減した。首相にも被災を伝えたい」と意欲を述べた。首相にも被災を伝えたいと意欲を述べた。首相にも被災を伝えたいと意欲を述べた。



安倍首相を訪問し温泉街の復興をアピールする道場六三郎さん（中）とジュディ・オングさん（右）。いずれも首相官邸で。



安倍首相を訪問した和倉・輪島温泉旅館同組合のおかみ。

景色。能登にはピンチをチャンスに変える力がある。機会があれば私も行ってみたい」と笑顔で応えた。能登地方には「加賀屋」（七尾市）など全国屈指の旅館・ホテルが多いが、地震発生後、十万人が宿泊をキャンセルした。（城島雄治）

平成 19年 5月 16日 (水) 北陸中日新聞朝刊 19面

仮設住宅訪れ

被災者と懇談

内閣府検討会委員ら

内閣府の被災者生活再建支援制度に関する検討会の座長を務める伊藤滋早大特命教授ら委員三人らが二十七日、能登半島地震に見舞われた輪島市



検討会委員に意見を述べる住民（輪島市門前町で）

門前町などを視察した。同支援制度では全壊世帯に最高三百万円が支給されるが、年収や住宅の解体・撤去など使途が制限されていることから、有識者が被害の実態に合うよう検討を進めているとありがたい。などこの意見が出た。視察に同行した後原一正・内閣府災害復旧・復興担当参事官は視察終了後に記者会見し、「住宅本体に使えるようにするなど使途制限の見直しも重要なテーマです」と話した。検討会では夏までに改正の方向性を定め、年内には結論をまとめる予定。（島崎勝敏）

平成 19年 5月 28日 (月) 北陸中日新聞朝刊 13面

住宅再建へ専門家派遣

能登半島地震復興基金を創設



住宅再建支援などの実施を決めた能登半島地震復興基金の設立理事会

前編として実施されるのは▽住宅再建組合相談・派遣事業▽農地等緊急手づくり復興支援対策▽住まい・まちづくり協議会活動支援事業の3点で、県は十月の復旧プラン策定を前に早急な対応が必要と判断した。

住宅再建相談は、被災した住宅の再建や修繕を補助する際、県建設住宅センターの建築士ら▽住まい・まちづくり協議会活動支援事業の3点で、県は十月の復旧プラン策定を前に早急な対応が必要と判断した。

支援の前倒し決定

農地復旧、まちづくりも

県は二十日に創設した五百億円の能登半島地震復興基金を活用し、農地復旧や住宅再建、まちづくり協議会への支援を前倒しで実施する。このうち住宅再建支援は、専門家が住宅の柱や基礎を調べ、修復の方法や費用について無料で見積りする。このほかの支援メニューは十月をめぐりに策定する復旧プランに盛り込み、既存の制度では対応できなかった復興支援策について、きめ細かく機動的に展開していく。

農地復旧は、被災した農地の復旧支援は、農地などの復旧支援は、災害復旧事業に該当しない農地、農道、用水路などの復旧費用で、ため池が被害を受けた場合の備用水ポンプ設置費用の四分の三（四十万円未満）を補助する。農林漁業団体の研修棟、広葉、シイタケ施設などの復旧費用の二分の一以内（六十万円未満）を補助する。まちづくり支援では、被災地の地域住民で構成する「住まい・まちづくり協議会」（仮称）を設置し、専門家と協働で、まちづくり計画の作成、まちなみ保全のルールづくり、地域活性化活動の開催などを支援するため、三年間で二百万円を限度に助成する。県庁で開かれた設立理事会では、今年度の事業計画として、個人住宅の再建や自立支援が困難な人への支援をはじめ、教育、福祉、医療施設の再建、農業の経営再建、地

平成19年8月21日(火)北國新聞朝刊5面

平成19年7月13日(金)北國新聞朝刊2面

能登半島 地震復興へ輪島で開催

石川の観光のあり方に十人で、能登の自然や文化を生かした観光や、県観光創生会議は二十三日、初めて輪島市で開催される。これまで市内どう、二十三日は輪島大祭の期間中であり、キリコ祭の練り歩きなども見学す

復興と風評被害に悩む。日本に駐在する外国のマスコミ関係者を招聘する事業も二十三日、二十四日に輪島市内で実施する。中間、イギリス、アメリカなど七カ国の新聞、通信社など十人が輪島大祭や朝市、千枚田などを取材して自国のメディアで報道してもらい、石川の認知度向上を図る。

被災者生活再建支援制度 「魂が入っていない」 谷本 制度見直し訴える



全国知事会議 十二日に熊本市内で始まった全国知事会議の中

では、被災者生活再建支援制度の見直しに関する緊急要望が緊急通り承認された。協議の中で、谷本正憲知事は能登半島地震の被災者として「支援制度の自身は被災者の生るため申請できる被災者活再建支援には極めて不十分であり、補填すれば、制度はあっても魂が入っていない」と制度見直しの必要性を訴えた。

【一面に本記】会議では、全国知事会災害対策特別委員会委員長の石川嘉延静岡県知事が能登半島地震でも多くの問題点が指摘されている同制度の見直しに関する緊急要望を提案。谷本知事は見直し賛成の立場で、制度が年輪や所得、期間制限があり複雑かつたという声がある」と述べ、第二期合併を進めていく前に国はこれまでの合併を経験する必要のあるとの認識を示した。

全国知事会議 熊本市内に出る谷本一雄本ホテル

十二日に熊本市内で始まった全国知事会議の中

谷本知事は見直し賛成の立場で、制度が年輪や所得、期間制限があり複雑かつたという声がある」と述べ、第二期合併を進めていく前に国はこれまでの合併を経験する必要のあるとの認識を示した。

震災1年の復興行事

プロジェクトチーム設置

県本部会議

県能登半島地震復旧・復興本部会議は三日、県庁で開かれ、被災地の復興、復興に向けた施策を総合的、網羅的に盛り込んだ「能登半島地震復興プラン」（第一次計画）を決定した。震災を総括し、教訓を生かすため、震災後一年を目途に復興

関連行事を実施することし、十一月中に復興関連を定め、県企画振興部震災復興支援室にプロジェクトチームを設置した。チームは部局横断的に課長級で構成

復興プランを決定



行事の内容や時期、実行委員会の構成などを検討する。会議ではボランティアとの交流や誘客イベント、防災や文化財保護のシンポジウム、心のケア研修会、商店街との連携事業などが例示され、週内に各部局から案を持ち寄ることとした。復興本部長の谷本正憲

再建モデル住宅 早ければ3月完成

会議ではこのほか、被災プランとの調整を図る必要が出てくるため、法案の審議状況を見極めていくことが確認された。県の再建モデル住宅「能登ふるさと住宅」は、早ければ来年三月に完成することが報告された。

知事は記者団に「来年三月二十五日の一日だけの行事に終わらせるのではなく、ある程度の期間を取って、いろんな行事を渡状的にやればよい」と語り、被災地一帯で数日以上にわたって行事を展開することで地震からの復興をPRしていく意向を示した。

臨機応変に手直し

プランで知事

住宅再建支援をはじめとする百八件の事業を盛り込んだ復興プランについて、谷本知事は「被災者のニーズをできるだけ組み入れたプランになったが、復興の作業が進む中で生まれる新たなニーズに対しても、随時追加し、臨機応変に手直ししていく」と述べた。

参院で与野党が過半数を確保した「ねじれ国会」で対決する自党と民主は、「被災者救済」の一点で難局打開に意を寄けた。「実質的」で歩み寄り、被災者生活再建支援法の改正案を一本化することで合意した六日、交渉を進めた議員

からは「画期的な改善だ」との声も。側面を援してきた関係国会議員も「地元への思いに応えられた」とも後援役進へ期待を寄せた。

【一面に本記】

自民「地元には満額回答」 民主「能登対象意義ある」

最後まで譲歩が難航し「与野党を軸でい」と大 日午前、参院で開いた実 じやないかと与野党が、法律に遡及と掛けこ たのは遡及の扱いだっ 幅に譲歩する一方で、選 務者レベルの会合でも、合意を巡ったのに対し、反発し、ぎりぎりまで激 た。関係者によると、小沢 及び譲れないと主張。六「これ特例」は実質的と民主議員からは「それな しい議論が交わされた。 支援法をめぐって 与野党が激突、民主 党が参院に改正案を 提出する異例の事態とな った。双方がメンツにこ だわり協議が決裂するべ ば、世論の批判を受ける のは明白で、国対幹部間 では早い段階から「被災 者救済という趣旨からし ても、歩み寄って成立さ せるべきだ」との考えで 一致していたという。六 日夕に行われた合意発表 の共同会見では「商業を 出して議論し、成立させ るという立法府のあるべ き姿が示された」として、 与野党協議のモデルケ ースになると胸を張る議員 の姿もあった。

被災者支援法合意案「実質的」で決着

被災者生活再建支援法改正案の主な内容

支給方法	現行	与党・民主合意案
	必要額を積み上げる方式	住宅の再建方法に応じた定額方式
支給限度額	全額 最高300万円 うち生活期間前 最高100万円 居住期間後 最高200万円	最高300万円 100万円 + (※)
	大規模半壊 最高100万円 (居住関係費だけ)	最高250万円 50万円 +
	大規模半壊 以外の半壊	支給なし
対象経費	建物は家財購入費、引っ越し代、住宅の解体撤去費、ローン金利などに限定	使途は限定せず
支給要件	年収800万円以下で、世帯主が45歳以上の世帯は700万円以下、世帯主が90歳以上の世帯は800万円以下	年齢・年収要件撤廃
過去の災害への適用	—	今年発生の中越前中越沖地震、台風11号と前編、台風12号の被災者も改正後の制度を利用できる

※敷地が被害を受けて住宅を解体する場合も全額の支給対象に追加

被災者救済で難局打開 「ねじれ国会」で画期的

「ねじれ国会」で画期的な改善だ」との声も。側面を援してきた関係国会議員も「地元への思いに応えられた」とも後援役進へ期待を寄せた。

「ベストな結果 被災者に朗報」

能登半島地震への実質的な遡及も認められ、被災者の知事として面目を保った谷本正憲知事は六日、「要望がほぼ認められ、ベストな結果。被災者にとって大変な朗報だ」と安堵の表情で記者団に語った。写真見。

谷本知事や県幹部は、ねじれ国会の中で与野党と民主の協議の行方に不安を募らせていた。それだけに谷本知事は「被災者の立場に立ち、小異を捨てて大同につけてもらった。担当大臣や地元国会議員の皆さんらの真摯な努力に心から感謝する」と強調した。

全国知事会には遡及には慎重な立場であり、副会長を務める谷本知事の立場は微妙であったとされる。それでもあえて谷本知事は先月十二日、「被害は現在進行形」として県議会に提案し、議員に遡及したほか、県選出国会議員に遡及適用を直ぐで要望し、六日夕、それらに電話で謝意を伝えた。と付け加えた。



「ベストな結果 被災者に朗報」

「提案提出後、能登、新潟の地方の方々からたくさん要望をいただいた。それぞれの方々にも納得の行く結果が出せると思う」

合意発表の共同会見で民主の高橋千秋議員は、こう語って合意に至った経緯を説明した。谷本知事が県防衛担当相らと会ったことに対し、自民の選出国会議員の一部には「永田町で寄り添りの協議をしている時に、知事が前を突っ込むべきではない」との声もあった。しかし、六日、合意案を受けて「結果的に知事の直談判は大正解だった。被災地のトップの必死な姿を自野の国会議員にも理解してもらったはずだ」（知事側）と、今回は行動派知事の作戦が奏功したと見る向きは多い。

半壊認められず残念

輪島市長 輪島市長は「被災者にとっては何よりの朗報だ」とコメント。ただ、被災した自治体が求めていた「支給対象の大規模半壊から半壊以上への拡大」が認められず、「非常に残念でならない」と付け加えた。

「最大限に頑張った」と述べ、委員長と「と述べ、委員長と「最大限に頑張った」と述べ、委員長と「と述べ、委員長と」

自民党議員も「実質的」で決着を認めた。だが、これでは「被災者救済」としての意義が薄くなる。被災地でも法改正を機に復興を加速させられると強調した。

能登半島地震も救済

改正被災者支援法が成立

今国会初の法律

大規模自然災害の被災者に対する現金支給を拡充する改正被災者生活再建支援法が九日の衆議本会議で全会一致で可決、成立した。自民、公明両党と民主党の共同提出法案で、今国会での法律成立は初めて。九日の参院本会議で全会一致で可決、通過し、直ちに衆院に送付、緊急上程され

た。【4面に関連記事】改正法は今年発生した能登半島地震、新潟県中越沖地震、台風1号、12号の四災害の被災者も利用できる特別措置を付則に明記。支給上限額は現行法と同じ三百万円に据え置いたが、使途を限定せず、住宅の再建方法に依りて定額支給とした。世帯主の年齢と世帯年収

による支給制限も撤廃した。使い勝手がよくなるよう配慮した。衆参の与野党勢力が逆転した「ねじれ国会」として九月十日に召集されたことについて、「(与野党で)お互いに話し合っ

て譲るべきところは譲る。そして、より良い法律に仕立てることが大事だ。協力的、理性的な国会運営ができればとてもいい」と評価した。

平成19年11月10日(土)北國新聞朝刊1面

被災者支援法

改正地域に生かせ

県が自治体担当者説明会



能登半島地震にも適用されたのに伴い、石川県内では十七日、被災地の穴水町で自治体担当者の説明会が開かれた。改正法は、被災者への支援を最大限に活用し、被災者への周知に努めることとされている。被災者への周知に努めることとされている。被災者への周知に努めることとされている。

石川県の職員から改正被災者生活支援法の説明を受ける自治体担当者—17日午前、同県穴水町で

説明会が開かれた。改正法では、被災者への支援を最大限に活用し、被災者への周知に努めることとされている。被災者への周知に努めることとされている。被災者への周知に努めることとされている。

説明会には、穴水町、志賀町、七尾市など十三自治体の担当者十九人が出席した。説明会では、改正法の詳細な内容や旧法からの差し替え申請する際の留意点を説明した。自治体からは、具体的なケースについての問い合わせもあった。

県危機対策課によると、県内では七十四人が説明会に参加しており、新たな対象

(穴水通信・島崎勝也)

改正被災者支援法成立

改正被災者再建支援法が9日、成立した。阪神大震災を機に98年に同法が新設されたから10年目。被災者が願っていた住宅再建への支給が可能

見舞金名目で決着

改正法が国会会期の延長と同時に成立したのは、参院で野党が過半数を占める「ねじれ国会」で多くの法案審議が滞るなか、「対立の末に成果なしでは批判を招く」との一点で与野党が一致したためだ。9月10日の召集から2カ月で成立した法律はこの一本のみ。最終的には公明、民主両党が主導し、懸案となっていた中越沖地震などに沿って適用する特例措置に決着をつけた。

になり、年収や年齢による支給要件も撤廃された。3月の能登半島地震、7月の新潟県中越沖地震など4災害も特例として支援対象とされた。「ねじれ国会」で第1号で成立した同法。そのいきさつと、被災者の複雑な思い、今後の課題を検証する。

「なぜそんなにこだわっているのか」。10月22日の参院の自民、民主両党国対関係者の打ち合わせで、自民党側が声を張り上げた。自民党が与党案・民主案の修正協議を求めたが、民主党が「党の主張が伝わらなくなる」と拒んだためだ。かたくなな姿勢は、政府から委

協を引き出す狙いがあった。だが、同30日の党首会談を境に、生活関連での歩み寄りが始まった。民主の菅直人代表代行は「1日も前進しない」と発言。一番に浮上したのが支援法だった。2日の与党・民主協議で、与

党は今年からの適用を主張する民主に4災害を対象に加える特例措置を提示、大枠で合意した。ここまでは制度拡大に慎重な財務省も想定の範囲だった。最終的な詰めを任された公明党の赤羽

一嘉元副財務相、民主党の松本剛明前政調会長は2日夜の協議で、現行法が500万円以下とする年収要件の撤廃でも合意した。行政の個人への支援策で、年収要件を備えていない制度はほとんどない。財務省は5日夜にこの合意に気づき「例外は好ましくない」と巻き返した。与党と民主党は6日に正式合意した。

財務省は当初、支援金の使途を住宅本体の再建にも拡大する案に対し「個人資産の形成に公金を使うのはおかしい」と反対姿勢をとってきた。一転して受け入れたのは、

だが、これではまとまった被害に遭った地域外の居住者は支援を受けられないことになり、局所的な全壊世帯は対象外となる。内閣府災害復旧復興担当は「小規模被害の場合には市町村で対応するのが基本」と説明する。自治体ごとに支援に格差が生じるケースも。04年10月の台風23号では、全壊世帯に京都府独自の

クロアツプ

2007

支援金地域差も

現行制度は、被害認定から支援金支給までの事務手続きや必要書類が煩雑で、被災者から「使い勝手が悪い」と指摘され

ていた。改正法では、細かな手続きがなくても一定額が支払われるよう見直された。被災者の申請窓口となる市町村の負担

を軽減する狙いもある。支援金は、47都道府県が財団法人・都道府県会館に拠出した基金600億円と運用益、国からの

補助金(支援金の2分の1)を原資としている。支援対象は「一定規模以上の自然災害」。現行の施行令では全壊世帯が▽市区町村で10世帯以上▽都道府県で100世帯以上▽上などの条件が付けられる。特定4災害でも▽中越沖地震は新潟県▽能登半島地震は石川県▽台風11号は沖縄県久米島町、北秋田市▽台風12号が沖縄県竹富町に適用が限られる。

は、支援金の名目が「見舞金」と位置づけられたため、「個人資産の形成に公金投入することにほならない」と判断した。【竹島一登、須佐美玲子】

平成19年11月10日(土)毎日新聞朝刊3面

門前・深見住民が完全帰宅



自宅で楽しむ川端夫婦
午後5時45分、輪島市門前町深見

三月二十五日の能登半島地震以来、全三十五世帯が仮設住宅などで避難生活を送っていた輪島市門前町深見地区の住民の大半が二十五日、集落につながる市道の通行規制の全面解除を受け、完全帰宅を果たした。土砂崩れで孤立し、船などで避難してから八カ月、不便な生活を強いられてきた住民は久しぶりのわが家で夕食を楽しんだ。「正月は子どもや孫とゆつくり過ごしたい」のどかな港町の住民に、つらさの時間が戻った。【下面に関連記事】

「いろいろ世話になった。元気でね」。三十五世帯八十三人の帰宅を祝福するかのような青空が広がったこの日、深見地区住民は仮設住宅で励まし合った他地区の入居者と涙ながらに別れを惜しんだ。午前九時ごろ、全

8カ月ぶり「正月はゆつくり」

早速、冬支度に汗

笑顔 わが家が一番



神社拝殿の雪固いに汗を流す住民
—25日午前10時、輪島市門前町深見の輪神社

員で記念撮影した後、布のように「近くで凍かっ」と口癖だった河内守で次々と出発した。向ふと車を走らせた。白と黒の道影が繰り返り、子どもや親に手を合わせ、「また」土砂崩れで通行不能となった市道は復旧工事が進み、昼間は一時的に帰宅できたものの、住民は八カ月間の苦勞と完全帰宅の喜びをかみしめるかに、婦も笑みを見られた。夫婿の御前送さんだ、

「早く深見に帰りたい」が口癖だった河内守と相好を崩した。板谷弘区長も三十一人は、集落裏山の輪神社の雪固い作業に動んだ。一めだたい日にけがせんよう、しつかり。にぎやかな声が飛び交う中、住民は協力して拝殿や本殿前に竹を組んでビニールシートで覆い、冬支度を整えた。板谷区長は「こんで正月を迎えられる」と顔をほころばせ

「漁などしてみたい」と声を弾ませた。美しい夕日が外浦に沈むころ、家々の明かりがともり、各世帯で食卓を囲んで笑顔が広がった。

「めでたい日にけがせんよう、しつかり。にぎやかな声が飛び交う中、住民は協力して拝殿や本殿前に竹を組んでビニールシートで覆い、冬支度を整えた。板谷区長は「こんで正月を迎えられる」と顔をほころばせ



「世話になった、元気で」仮設仲間と涙の別れ

仮設住宅前で記念撮影をする深見地区住民
—午前8時50分



他地区の仮設住宅住民と別れを惜しむ深見地区住民
—午前8時55分、輪島市門前町道下

川崎春雄さんで、きしさんで夫は、こたつで足を伸ばして大画面テレビで好きな大相撲中継を見た後、煮物や魚料理を舌鼓を打ち、「一緒なと笑顔を浮かべた。

「おかずでも家で食べるのはやっぱ、おいしいわ」と喜んだ。元船員の春雄さんは「住民総出で岩ノリを採るのが楽しみや」

門前で震度5弱



被害状況などを確認する職員
—26日午前5時、輪島市役所

被害の報告口なし

能登半島地震の余震か

二十六日午前四時三十分ごろ、能登半島地震の余震とみられる地震があり、輪島市門前町走出で震度5弱を観測した。県内で震度5弱以上を観測したのは、昨年七月十六日の新潟県中越沖地震以来となる。県内で建物や人的な被害は確認されていない。



気象庁の発表では、震の深さは約二〇キロ、マグニチュードは4.8と推定される。午前六時五分に輪島市で最大震度2、同七時三十分同市で震度1を観測した。

気象庁では「今後一日程度は震度1ほどの揺れが数回あるかもしれないが、強い揺れが起きる可能性は小さい」として

いる。北陸電力によると、七尾大田火力発電所は通常通り稼働している。志賀原子力発電所も通常通り稼働している。志賀原子力発電所は定期検査のため停止中、被害は確認されていない。県内での停電被害はない。

能登半島地震で八カ所が閉鎖された能登有料道路も通行止めはなく、能登空港も滑走路などに被害はないという。JR西日本金沢支社によると、七尾発金沢行ききの七尾線始発列車が安全確認のために一時停車したことで約十七分の遅れが生じたが、そのほかの列車は通常通り運行されている。

この地震で輪島市内の六十代の男性が避難の際に怪我を打ち、病院で手術を受けたが市では、けがに人を含めていない。各地の震度は以下の通り。

- 石川県は、発生から一時間二十二分後の二十六日午前五時五十分から迅速な対応ができた。
- 「Aコープもんせん」で商品が落下した。

「迅速対応できた」 発生1時間22分で開催

石川県は、発生から一時間二十二分後の二十六日午前五時五十分から迅速な対応ができた。「Aコープもんせん」で商品が落下した。



防災強化へ施策大
綱案を了承した震
災対策専門委員会
—県庁

自主防災組織を育成

県震災対策専門委 大綱案を了承

有識者でつくる県震災対策専門委員会は二十九日、県庁で第三回会合を開き、自主防災組織の育成・強化などを柱とする施策大綱案を了承した。これまでの会合で昨年三月の能登半島地震の

初動対応や避難対策などについて検討、協議し、大綱案をとりまとめた。能登半島地震の初動対応について「地域コミュニティが機能し、家屋の下敷きになった人を消

防の到着前に発見、救出することができ、被害拡大を防いだ」と評価。大綱案に、住民主体の自主防災活動を全県に広げていくことを盛り込んだ。大綱案ではこのほか、避難生活が長期化した場合の被災者の健康を維持するため、公営、民間の宿泊施設の活用を検討すべきと提案。避難所の運営管理マニユアルの策定を県内各市町に促したほか、民間団体の協力による文化財保護体制を確立するよう求めた。

人的被害を軽減するため、倉庫棚などの転倒、落下防止策を講じるよう啓蒙することなども盛り込まれた。

来月にも最終報告書としてまとめ、五月の県地域防災計画（震災対策

大綱案に盛り込まれた重点推進施策は次の通り。

▽重要な施設や個人住宅の耐震化の推進▽通信体制の充実強化▽災害時要援体弱者支援体制の強化▽自主防災組織の育成・充実▽防災教育、訓練の充実強化▽広域防災拠点の機能強化

震災対策全国発信を

専門委 知事に大綱提出

石川県震災対策専門委員会は、知事に大綱案を提出した。大綱案は、知事に提出された。大綱案は、知事に提出された。大綱案は、知事に提出された。



震災対策大綱を谷本知事に平澤
専門委員長が石川県庁で

復旧から本格復興へ

輪島でシンポ

絆守り、郷土再生に決意



約1200人が復興を誓ったシンポジウム
—輪島市文化会館

輪島市文化会館でのシンポジウムは「復興の家」をテーマに、シンポの場を契機として、輪島市を再生させるための決意を表明した。復興の理念を語り、絆を守り、郷土再生に決意を表明した。復興の理念を語り、絆を守り、郷土再生に決意を表明した。

このシンポジウムは、輪島市を再生させるための決意を表明した。復興の理念を語り、絆を守り、郷土再生に決意を表明した。

平成20年3月26日(水)北國新聞朝刊38面

能登の温もり誇りに

発生時刻に黙祷

発生時刻に黙祷。輪島市時宗町で行われた復興式では、物産に感謝を捧げる。発生時刻に黙祷した。物産に感謝を捧げる。

あれから一年 3.25能登半島地震 素朴な人情に涙と笑顔



舞台で「あから一年」を語る田中さん(左)と、司会を務める田中さん(右)。

素朴な人情に涙と笑顔。あれから一年、3.25能登半島地震。素朴な人情に涙と笑顔。

田中さん「温かい支え、感謝」

田中さん「温かい支え、感謝」。あれから一年、3.25能登半島地震。田中さん「温かい支え、感謝」。

能登の花ヨメ」上映会



「能登の花ヨメ」上映会。田中さん(左)と、司会を務める田中さん(右)。

「能登の花ヨメ」上映会。田中さん(左)と、司会を務める田中さん(右)。

平成20年3月26日(水)北國新聞朝刊39面

震災の救援、復旧支援

333個人・団体に感謝状

知事贈呈

県は二十五日、県庁で被災地に元気を与えて能登半島地震の救援、復興の勇気を与え、復旧、復興に支援、てくれた」と謝意を示協力した団体、個人に、二十五日付で感謝状の贈呈式を行い、谷本正憲知事が「物心両面の支



援が被災地に元気を与えて能登半島地震の救援、復興の勇気を与え、復旧、復興に支援、てくれた」と謝意を示協力した団体、個人に、二十五日付で感謝状の贈呈式を行い、谷本正憲知事が「物心両面の支

援が被災地に元気を与えて能登半島地震の救援、復興の勇気を与え、復旧、復興に支援、てくれた」と謝意を示協力した団体、個人に、二十五日付で感謝状の贈呈式を行い、谷本正憲知事が「物心両面の支

援が被災地に元気を与えて能登半島地震の救援、復興の勇気を与え、復旧、復興に支援、てくれた」と謝意を示協力した団体、個人に、二十五日付で感謝状の贈呈式を行い、谷本正憲知事が「物心両面の支

援が被災地に元気を与えて能登半島地震の救援、復興の勇気を与え、復旧、復興に支援、てくれた」と謝意を示協力した団体、個人に、二十五日付で感謝状の贈呈式を行い、谷本正憲知事が「物心両面の支

援が被災地に元気を与えて能登半島地震の救援、復興の勇気を与え、復旧、復興に支援、てくれた」と謝意を示協力した団体、個人に、二十五日付で感謝状の贈呈式を行い、谷本正憲知事が「物心両面の支

援が被災地に元気を与えて能登半島地震の救援、復興の勇気を与え、復旧、復興に支援、てくれた」と謝意を示協力した団体、個人に、二十五日付で感謝状の贈呈式を行い、谷本正憲知事が「物心両面の支

援が被災地に元気を与えて能登半島地震の救援、復興の勇気を与え、復旧、復興に支援、てくれた」と謝意を示協力した団体、個人に、二十五日付で感謝状の贈呈式を行い、谷本正憲知事が「物心両面の支

災害対策本部を解散

誘客區万人増へ復興支援強化

地震復興本部

県は六日、能登半島町も同日に解散。県は、本部長の谷本正憲知事の発議で設置した復興支援本部をさらに強化。被災地復興への大きな力を頂いた。今後、被災地に元気を与え、復興の勇気を与え、復旧、復興に支援、てくれた」と謝意を示協力した団体、個人に、二十五日付で感謝状の贈呈式を行い、谷本正憲知事が「物心両面の支

平成20年4月26日(土)北國新聞朝刊4面

する準備を指示した。百八十八件、四億二億〇七〇年の観光収入で、二億六千七百九十五万円、約百三十三万人減のし交付された。約千九百四十七万人。住宅再建について、能登地域は百六十六万人。地元意向調査では80%が自力再建を希望。被災者から提供を受けた土地に戸建て公営住宅四戸を建設する。

各部局長が復旧、復興の進捗を約二百五十棟報告した。復興基金は夏までに意思を五決定する。公営住宅には輪島市の四十九、穴水町の十七世帯が入居を希望。同市は被災者から提供を受けた土地に戸建て公営住宅四戸を建設する。

秒針

◆本部会議 落した写真の最後に、という。簡易な被災地復興本部について、なる。余震も規模、回数が減少し、総括し、大きな揺れの確率は極、復

「夏にジャンプ」なるか

めて低い、役割は果たした。県へ向けて大きく軸足を移すと報告すると、谷本知事は「解散」を宣言。記者団に「これで復旧作業が一段、進めたのは、風評被害対策



だった。7月から開幕する能登ふるさと博、加賀四藩博での誘客に期待感を示し「今年の春がホット、ゴールデンウィークがステップ、そして夏にジャンプで、客足を地震前の状況に取り戻したい」と強調。災害本部の「看板」はなくなっても、肩の荷が下りたとはいかないよう。

平成20年6月7日(土)北國新聞朝刊4面



地域防災計画などを
見直しした県防災会議
—県庁

避難所運営手引急ぐ

能登地震 地域防災計画を修正 県防災会議

県防災会議は十六日、避難所運営手引のブライバシー確保への対策として、能登半島地震の初動体制や避難所の運営、被災証明事務の修正案などを承認。県内各市で避難所運営の研修会への積極的参加、避難支援マップや災害廃棄物処理計画の作成に努めることなどを盛り込んだ。

会議会長の谷本正憲知事はあいさつで、中国・四川大地震に比べ、能登半島地震の教訓を生かし、実効性のあるものにする必要がある」と述べ、九月に羽咋市で行う防災訓練に計画を反映する考えを示した。

御陣乗太鼓など地域伝統芸能ステージを楽しむ観客
—19日午前11時40分、輪島市の日本航空学園輪島校



能登の魅力 元気に発信

能登半島地震からの家で約三百年間、燃え復興をアピールする能登。続けてきた「火さま」登ふるさと博は十九日、日本航空学園輪島校内で開幕した。山形市長に授けられた。灯は輪島の幸を盛り込んだ。「能登半島市会」(北登井)夏メニエの版「能登半島」など、売や各地の伝統芸能の「灯り」でつなぐ能登半島演劇などが行われ、大島の十三行事で使用勢の家族連れらでにぎわった。

約四十人が出席した。幕を閉じた後、御陣乗太鼓や七尾レモニーでは、能登半島市、また、珠谷本正憲知事が「伝統芸能」のちよ「震災以前の観」を語り、光客数に反するため、能登などがにぎやかに披露登は一つの思いを共された。北海道洞爺湖有し、もてなしの心、サミットを記念した素材な人情を訴える取「輪島薬師」や人間関係に相み一緒に頑張る宝の作前展示も来場者う」と述べた。互力衆の目を引き付けた。

能登ふるさと博は十月二十六日まで、間、各地で祭りやコンサート、景品プレゼントなど、尾市中島町河内の中屋、繰り広げられる。

ふるさと博開幕、多彩に100日間

県防災訓練に住民2500人

化。過去最多の約2500人の住民が参加して、町会などの自主防災組織による倒壊家屋からの救出やボランティアの運用訓練、安否確認などを行った。

昨年3月の能登半島地震の教訓を初めて反映した県防災総合訓練が7日、羽咋市内であった。能登半島地震では地域住民の連携が力を発揮したことから、住民参加型の訓練を強

能登半島地震の教訓生かせ 地域の防災力強化狙う



県震災対策専門委員会が2月にまとめた施策大綱では、安否確認や避難所運営に、民生委員や地区ごとの住民組織が大きな役割を果

たしたことを指摘。住民でつくる自主防災組織をさらに強化・育成しようとして、今回の訓練に具体策を盛り込んだ。県危機対策課の高下

①被災者のニーズをまとめ、ボランティアの配置などについて話し合う住民ら＝羽咋市中央町
②倒壊した柱をジャッキで持ち上げ、被災者救出の訓練をする住民たち＝同市南中央町



訓練は、県西方沖を震源とするマグニチュード7.0の地震が発生し、多数の家屋が倒壊して死者・負傷者が出たとの想定で実施。主会場の同市南中央町の旧羽咋織維跡地には、消防や警察、自衛隊、自治体の担当者が加えて住民約140人が集まった。

柱の下に被災者に見立てた人形を置き、倒壊家屋を再現。今回初めて住民による救助訓練が行われ、各町会からの参加者がジャッキを使って救い出し、毛布と竹の担架で搬送する訓練を繰り返した。近くに住む後山員衛さん(86)は「救助、搬送のどちらかに人数が偏らないよう瞬時に役割分担するのが難しい。一度経験しておけば、あわてなくてすむと思う」。

同市中央町の羽咋小学校には住民や児童約700人が集合。住民が中心となったボランティア運用訓練を行った。

能登半島地震ではボランティアの配置や被災者のニーズ把握に手間取る例もあったため、住民自ら受付係になり、登録や行き先の指示などをした。同市千原浜町の主婦高沢久美子さん(60)は「いざ大勢の人間に囲まれると混乱してしまったが、今回で自信が持てました」と話した。

災害住宅10戸が完成

輪島・門前
竣工式 来月10日から入居

完成第1号となった災害公営住宅
＝輪島市門前町道下



輪島市が同市門前町道下の松風白岡地で建設を進めていた能登半島地震の災害公営住宅10戸が完成し、二十五日、入居予定者や関係者約五十人が出席して竣工式が行われた。同町道下、鋼の仮設住宅の十世帯十四人が三月十日以降、入居する。

完成した住宅は木造平屋建て、二戸一棟型で、1DK七戸、2DK三戸、互に二層棟、

下島板垣町の伝統的な

外観で、各棟間に緊急避難路となる共用道路を配置し、緊急通報装置なども備えている。「仮設より広く、プライバシーも保てる」が「(住居など)人的な復興を絡めることが重要」との置き場所を確認した。

輪島市は松風白岡地設住宅の退去期限は四月末まで、横地町で計四十五戸、門前町内の三戸所有地四カ所で災害公営住宅を整備しており、三月下旬まで工事が完了する予定という。仮

平成21年2月26日(木)北國新聞朝刊29面

輪島深見の避難所

復興基金で整備支援 知事が意向 場所、経路限られる

県議会は四日、本会議を再開し、宮下正博氏(白民)の一般質問に対し、谷本正徳知事は能登半島地震で被災した輪島市門前町深見地区の住民が進める一時避難所の整備について、復興基金を使い建設費を支援する意向を示した。

県議会 一般質問

宮下氏は深見地区のは強い地域のあすなが住民や仮設住宅での生活を強いられた被災者返った。その上で「住民が自発的に一時避難所の機能を合わせ持つ」に促され、避難場所や施設を整備すること

は、「住民の安全・安心を確保できる施設が必要だ」と県の支援を求めた。

知事は深見地区について「避難路が十分確保され、他の避難所を兼ねたことにより、今でも鮮明に記憶に残る。知事に避難ができたの

平成21年3月5日(木)北國新聞朝刊5面

平成19年
能登半島地震災害記録誌

【発行日】 平成21年3月25日

【発行】 石川県

〒920-8580

石川県金沢市鞍月1丁目1番地

TEL 076-225-1111 (代表)

URL <http://www.pref.ishikawa.jp/>

【編集】 石川県危機管理監室

TEL 076-225-1482

FAX 076-225-1484
